

その時々やりたいことを

いつもどこか余裕があり、楽しそう。コクレオの森(箕面こどもの森学園※)の理事で、穏やかな親しみやすい雰囲気がある芳仲猛さんにお話を伺いました。



人との関係が深まったきっかけ

支援学校の教員時代、保護者と一緒になって障がい児・者の教育や福祉に関わる様々な運動や活動をしてきました。その中の一つに土曜教室があります。1995年頃から学校週五日制が導入され、学校以外に活動の場のない子どもたちの受け皿として始まりました。教員の他、音大生やYMCAの職員にもメンバーになってもらい遠足、スキーツアー、プール、潮干狩り等のお出かけや室内での音楽、ゲーム等色んなことをしました。そこで始めた料理教室は私自身とても勉強になりました。カヌーの体験教室は退職後も続いて今年で15回目を迎えます。

偶然の出会い

コクレオの森とは偶然が重なって出会いました。フランス留学中、大学の講義を時々さぼって港へ釣りに行ったのですが、ある日偶然バス停でフレネ教育研究者の若狭蔵之助氏が釣竿を持った私に声をかけたのがすべての始まりです。彼はフレネ教育の研究のためにニースに滞在していました。そこでフレネ教育について話を聞き、学校見学も一緒に行きました。その後帰国して私は支援学校に勤め、障がい児教育の道に入ります。そしてフレネ教育とは年に一回の全国集会に出かける程度の関わりが続いていました。そんな中、妻から箕面にフレネ教育をする学校ができるという話を聞き、今に至っています。非常にマイナーなフレネ教育の学校がよりによって私の住んでいる箕面にできるというのは隕石に当たって死ぬぐらいの確率だと思いました。

箕面こどもの森学園ではフレネ教育やイエナプランをもとに子ども自身の自主性や自由な表現を尊重した学習が行われています。私の今までの生き方と重なる部分が多々ありますが、一つ大きな違いがあります。箕面こどもの森学園では一人ひとりが学習計画を立て、活動の後に振り返りを行い次の計画を立てるという具合にやっていくのですが、私の人生は行き当たりばったりです。とくに振り返りという行為はほとんどありません。その道一筋の、というのはどうも苦手で、その時々にくわくわくすることをやってきました。松本白鷺さんの言葉に六十歳過ぎてから見る夢が本当の夢、というのがありますが、これからも夢を追いかけていきたいです。

※ 認定NPO法人コクレオの森が運営する学校。同法人の旧名称でもある。

芳仲 猛さん Information

元支援学校教員。

趣味・特技：
クラシックギター、フランス語、料理、園芸、旅行、食べ歩き、骨董
大阪府箕面市在住

コクレオの森について 詳しく知りたい方は



みんなで創るミライの学校
— 21世紀の学びのカタチ
辻 正矩 藤田 美保
守安 あゆみ 佐野 純
発行：築地書館 2019年